

Sug↑Cam.

大学のお宝を
見に行こう



女子美術大学
女子美術大学短期大学部

住 所 東京都杉並区和田 1-49-8
交 通 ◎東京メトロ丸ノ内線「東高円寺駅」下車徒歩8分
TEL 杉並キャンパス ▶ TEL.03-5340-4500 (代)
URL <http://www.joshibi.ac.jp>

高千穂大学

住 所 東京都杉並区大宮 2-19-1
交 通 ◎京王井の頭線「西永福駅」下車 北口より徒歩7分
TEL TEL.03-3313-0141
URL <http://www.takachiho.jp>

東京立正短期大学

住 所 東京都杉並区堀ノ内 2-41-15
交 通 ◎東京メトロ丸ノ内線「新高円寺駅」下車 徒歩11分
 ◎京王井の頭線「永福町駅」下車
 →新高円寺・高円寺行バス利用「松ノ木公園」下車 徒歩7分
 ◎環状7号線を通るバス利用「堀ノ内バス停」下車 徒歩7分
TEL TEL.03-3313-5101 (代)
URL <http://www.tokyorissho.ac.jp>

明治大学

住 所 東京都杉並区永福 1-9-1
交 通 ◎京王線・京王井の頭線「明大前駅」下車徒歩5分
TEL 和泉キャンパス ▶ TEL.03-3296-4545 (代)
URL <https://www.meiji.ac.jp>

東京女子大学

住 所 東京都杉並区善福寺 2-6-1
交 通 ◎JR中央線「西荻窪駅」下車 北口より徒歩12分
 ◎北口1番乗り場より 吉祥寺駅北口行バスで「東京女子大前」下車
 ◎JR中央線・京王井の頭線「吉祥寺駅」下車
 → 北口3番乗り場より 西荻窪駅行バスで「東京女子大前」下車
 ◎西武新宿線「上石神井駅」下車
 → 南口より西荻窪駅行バスで「地蔵坂上」下車 徒歩5分
TEL TEL.03-5382-6340
URL <http://www.twcu.ac.jp>

立教女学院

住 所 東京都杉並区久我山 4-29-60
交 通 ◎京王井の頭線「三鷹台駅」下車 徒歩1分
 ◎JR中央線「西荻窪駅」南口より「立教女学院行き」バス
TEL TEL.03-5370-3038
URL <https://www.rikkyojogakuin.ac.jp>

大学名	講座等名	日時	内容・特記事項
高千穂大学	経営学特別講座	5月～7月毎週木曜日 ◎午前10時40分～午後0時10分	「全国スーパーマーケット協会」寄附講座 詳細は高千穂大学HPをご覧ください。
女子美術大学・女子美術大学短期大学部	女子美術大学歴史資料展示室(杉並キャンパス) 佐藤志津没後100年記念展 「佐藤志津と私立女子美術学校」	3月8日(金)～7月15日(月・祝) ◎午前10時～午後5時	初代校主・第2代校長佐藤志津の生涯と功績を紹介。 ●無料 ●火・日・祝 休室(4月14日、7月14・15日は特別開室)
	女子美ガレリアニク(杉並キャンパス) ニケキュレーターズセレクション #04 藤岡ちさ展	4月12日(金)～5月22日(水) ◎午前10時～午後5時	絵本「リリーとナッツゆきのクリスマス」を中心とした、作家初原画展。 ●無料 ●日・祝 休廊(4月14日は特別開廊)
	女子美ガレリアニク(杉並キャンパス) 女子美術大学短期大学部 1年前期基礎造形展	7月5日(金)～7月31日(水) ◎午前10時～午後5時	短大1年の学生が自由選択授業の18講座で制作した作品を展示。 ●無料 ●日・祝 休廊(7月14・15日は特別開廊)
	女子美アートミュージアム(相模原キャンパス) SPEED FLAT/ 未来のものづくりを考える デザインプロジェクト展	4月24日(水)～6月8日(土) ◎午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)	未来の創生デザインのあり方を考えるデザインプロジェクト「SPEED FLAT」の研究活動を紹介。 ●無料 ●日・祝 休館
	女子美アートミュージアム(相模原キャンパス) 女子美術大学美術館コレクション展 作品と授業をつなぐ試み	6月26日(水)～8月3日(土) ◎午前10時～午後5時 (入館は午後4時30分まで)	美術館コレクションを学生が制作した鑑賞補助ツール等とともに展示。 ●無料 ●日・祝 休館(7月14・15日は特別開館)
立教女学院	聖マーガレット礼拝堂 オルガンコンサート “Pater Noster” (主の祈り)	6月1日(土) ◎午後2時～3時30分	バッハほか様々な作曲者による、「主の祈り」と題した楽曲のみを集めたパイプオルガン演奏会 ●チケット 2,000円 (全席自由) ●未就学児入場不可
東京女子大学	杉並区内大学公開講座 もっと知りたい! 歌舞伎十八番	5月17日(金)～6月21日(金) (毎週金曜・全6回) ◎午後2時55分～4時25分	●講 師: 光延真哉(本学准教授) ●対 象: 原則として18歳以上の区内在住・在勤・在学の方 ●受講料: 1,000円(全6回分)
	高校生のための公開講座 生活で使う 英語コミュニケーション	7月27日(土)・28日(日) ◎各日2コマ ①午前10時～12時 ②午後1時～3時	●講 師: 7月27日(土)バトリック・マツコイ(本学准教授) 28日(日)橋本ナターシャ(本学嘱託講師) ●対 象: 男女高校生・予備校生 ●受講料: 無料
	夏季特別講座 (一般対象)	未定 (8月下旬～9月上旬の2日間を予定) ◎各日2コマ ①午前10時～12時 ②午後1時～3時	●講 師: 石井信夫(本学教授) ●受講料: 1コマ1,000円(学生半額)
明治大学	神社と祭りの日本精神史	4月13日・27日／5月18日 6月1日・15日・29日 (全回土曜日) ◎午後1時～2時30分	本講座は、神社をひとつずつ採り上げながら、古代から中世という歴史の過渡期における日本人の信仰と宗教について考える。 ●対 象: 一般 【全6回】有料6,000円
	俳句大学(和泉夜間クラス)	4月22日／5月13日・27日 6月10日・24日／7月8日・22日 8月5日 (全回月曜日) ◎午後7時～8時30分	これまで俳句や文学とはまったく縁のなかった方も、句作経験のある方も歓迎します。安心して受講してください。 ●対 象: 一般 【全8回】有料17,600円
	少子高齢社会の負担のあり方	5月18日(土) ◎午後1時～2時30分	現役世代の労働のあり方、少子高齢社会の過ごし方、それに伴う家計、税と社会保険などの公的負担について、数値とともに紹介。 ●対 象: 一般 【全1回】無料

●詳細は、各大学のHP等で直接ご確認ください。

発行: 杉並区と区内高等教育機関との連携協働推進協議会 (事務局)杉並区阿佐谷南1-15-1 杉並区教育委員会事務局生涯学習推進課管理係内

明治大学(和泉キャンパス)のお宝

文豪達のこだわり抜いた初版本の収集文庫に
学生達もびっくり!「日本近代文学文庫」

明治大学で教鞭を執った文豪をご存じでしょうか?夏目漱石、萩原朔太郎、室生犀星と錚々たるメンバー。明治大学「日本近代文学文庫」は、そんな文豪たちの作品の初版本を中心としたコレクションです。文庫は昭和22年当時明治大学予科長だった小林秀穂氏の功績を称えて「小林文庫」として開設され、「現在、総数約3,900冊。年に2回開かれる選書分科会で、少しずつ蔵書を増やしています。」と和泉図書館事務室の畑野さん。夏目漱石『吾輩ハ猫デアル』、宮澤賢治『注文の多い料理店』、川端康成『伊豆の踊子』、小林秀雄、萩原朔太郎、堀辰雄や泉鏡花、さらには杉並区ゆかりの井伏鱒二、北原白秋の初版本も所蔵されており、私たち杉並区民にも馴染みのある作品ばかりです。



左: 宮沢賢治「心象スケッチ 春と修羅」。関東大震災で図書館に大きな被害があった際、宮澤賢治本人が寄贈してくれたもの。表紙はアザミの触感を布で表現した秀逸な初版本です。

右: 川端康成の限定本「伊豆の踊子」表紙は渾身の12度の重ね刷り版画!本文にも小物や和食器などの小さい版画が1ページごとに刷られており、とても可愛らしい。

高千穂大学のお宝

企業の歴史と熱い思いが詰まるプライスレスなコレクション!
「高千穂大学図書館所蔵社史コレクション」

平成2年度、経営学科設立記念事業として、社史コレクションをスタートした高千穂大学。現在約6000冊の社史を所蔵しています。経営学部の大島教授は社史の編纂にも携わっておられ、「優秀会社史賞」の選考委員も務めています。「今年(2018年)特別賞を取った『雪印乳業史』は、企業の研修のみならず、経営を学ぶ上でも非常に貴重な資料です。集団中毒事件から、経営危機に陥った最悪の事態から立て直した至った経緯を克明に記述していて、企業の戦いを授業で話すと学生達にも興味を持ってもらえます

「高千穂大学図書館所蔵社史コレクション」
高千穂大学図書館は、登録申請すれば杉並区在住、20歳以上の方は利用することができます(登録料:年間1000円)。
●利用時間:平日 9:00~17:00/土曜日 9:00~12:00
●詳しい情報は、公式ホームページをご確認ください

執 筆: 加藤智子(区民ライター)
撮 影: NPO法人TFF
写真提供: 高千穂大学
取 材 日: 2018年12月18日

●表紙DESIGN:女子美術大学デザインルーム 田中花菜

杉並区に本社のある緑ある企業の社史も。
【社史】企業が発行する会社の歴史書。通常、市場に流通しないため入手が困難。



初版本には、作者のこだわりが色濃くあらわれている事が多く、例えば三島由紀夫の作品『橋づくし』の限定本『雪の巻』『月の巻』『花の巻』は鮮やかな袱紗に包まれ、透かし絵が1ページごとにあしらわれており「まさに耽美派三島由紀夫と言わしめる本ですよ。この限定本を世に出す直前に、自決したと言われています。」と畑野さん。通常は非公開のため、ギャラリーで行われる展示会に来て「うちの大学にこんなスゴイのあったんだ!」と、驚く学生もいるそうです。ギャラリーでは図書館の資料のほか学生による展示等を開催しています。ギャラリーは区民も無料で入場できるので、お気軽に足を運んでみてくださいね。



平成24年に建てられた明治大学和泉図書館。特定の研究テーマをお持ちの方は、登録申請(年間3,000円)することにより区民も利用できます。

執 筆: 加藤智子(区民ライター)
撮 影: NPO法人TFF
写真提供: 明治大学
取 材 日: 2018年12月18日



歴史ある老舗、財閥系企業の社史も。企業の内部事情を当時の社会情勢と共に垣間見ることが出来る貴重な資料。

東京立正短期大学のお宝

80年の歴史ある迷宮チックな記念講堂

工藤学長が「重要な文化財と言えるのではないか」と紹介するのは、1937(昭和12)年に落成した記念講堂。延べ811坪、鉄骨鉄筋コンクリート4階建てで、歴史的な価値に加え、構造のユニークさが目を引く建物です。ホールの左右どちらからでも2階に行けるシンメトリーな階段や、教員ですら「中に何があるか謎なんです」と言う鍵のかかった扉、体育館や高校に通じる地下道など、階段や通路が各所に繋がり、さながら迷宮のよう。ホールの壇上奥には、式典時にのみ公開帳となる貴重な「釈迦如来立像」が大切に保管されています。



地下道を通して他の施設と行き来できるので、雨の日の移動に便利



エントランスに、創立者・岡田日勝上人(70年史による。)



貴重な尊像「釈迦如来立像白木(おそろく尾州校)彫眼彩色仕上」を安置する講堂。ご開帳は年に数回の行事のみ。

「記念講堂」
例年、文化祭(9月下旬の日曜)、学習発表会(12月)の時に見学が可能です。くわしい日程は公式ホームページをご確認ください

執 筆: 西永福丸(区民ライター)
撮 影: NPO法人TFF
写真提供: 東京立正短期大学
取 材 日: 2018年12月13日



本館校舎と同じく松岡誠一氏が設計した記念講堂

東京女子大学のお宝

日本近代建築の父 レーモンドが設計した歴史的建造物群



正門をくぐるとまず目に入る「本館」



チャペル内部から見たステンドグラス



A.K.ライシャワとその一家が1927年から1941年まで暮らした

「歴史的建造物群」

●文化庁登録有形文化財
●平成4年度BELCA賞(ロングライフビルディング部門)
本館、チャペル・講堂、6号館(東校舎)、7号館(西校舎)
《竣工》7号館:1924年/外国人教師館:1924年/安井記念館:1925年
6号館:1927年/ライシャワー館:1927年/本館:1931年/チャペル・講堂:1938年

緑豊かなキャンパスの中に建つ歴史的建造物群。建築家アントニン・レーモンド(1888-1976)の戦前の作品として知られる貴重な建築で、全7棟が文化庁登録有形文化財に登録されています。正門に入って右手にあるのが「チャペル・講堂」。JR中央線の電車から見える白い尖塔をご存じの方もいるかもしれません。チャペルでは授業期間中、毎朝礼拝が行われています。ステンドグラスの色は42色。カラフルで優しい光が降り注ぎ、太陽の動きによって差し込む光が変化します。祭壇の上のステンドグラスは十字架の形。この建物はチャペルと背中合わせに講堂があるという構造も特徴です。キャンパスのシンボルである「本館」は目の前にある池に映る姿もきれいです。正面の壁には「QUAECUNQUE SUNT VERA」(すべて真実なこと)とラテン語で刻まれています。これは大学の標語で新約聖書から引用された言葉です。「本館」は1996年までは図書館として利用されていました。現在は授業の教室などとして使用。2・3階にある「新渡戸記念室」では、大学の歴史的資料を展示しています。

「本館」の左右には庭を囲むようにして「6号館(東校舎)」「7号館(西校舎)」、が向かい合って建っています。少人数教育の方針に合わせ、校舎内には小さい教室がたくさんあります。「7号館」はキャンパスにある建物の中で最古の建物の一つです。このほかにも、第2代学長安井てつ、初代常務理事を務めたA.K.ライシャワ博士と家族、大学に派遣された外国人教師たちがそれぞれに住んでいた3軒の建物があります。いずれも日本の初期の鉄筋コンクリート住宅です。

歴史邸建造物群および「新渡戸記念室」
見学は事前に総務課(03-5382-6340)までお問い合わせください。

執 筆: こなみ(区民ライター)
撮 影: NPO法人TFF
写真提供: 東京女子大学
取 材 日: 2018年12月20日

女子美術大学のお宝

染織の手技を堪能できる
「日本の裂 絞り染」



左:段替り草花模様裂 桃山時代
右:七宝繋ぎ模様裂 奈良時代

第45回女子美術大学美術館コレクション「日本の裂 絞り染」
杉並キャンパスの歴史資料展示室で見学できます。2019年9月18日(水)~10月28日(月)
●開室時間:10:00~17:00(入室は16:40まで)
●休室日:火・祝日 ※9月15日(日)特別開室 ●入室料: 無料
詳しい日程は大学ホームページをご確認ください。

立教女学院短期大学のお宝

クラシックな礼拝堂と荘厳なパイプオルガン

2019年に創立142周年を迎える立教女学院には、歴史的な聖マーガレット礼拝堂があります。聖路加病院を手掛けた米国の建築家バーガミニの設計による礼拝堂は1932(昭和7)年に建てられました。関東大震災の経験をふまえて、当時最新の鉄筋コンクリートで造られました。しかし、内部は、扉や長椅子、梁などに無垢の米国産オーク材がふんだんに使用されていて心地よい温かみを覚えます。その礼拝堂には荘厳な響きを放つパイプオルガンが設置されています。現在のオルガンは1998(平成10)年に設置された2代目。初代はその一部が講堂に移設されて現在でも使われています。2代目の設置にあたっては、世界中の製作会社の中から選びぬいた米国のテイラー&ブーディー社に設計・製作・設置を依頼。同社は、学院の礼拝堂の特徴を綿密に研究し、最高の音を作り出すよう考え抜きました。また、パハのオルガン音楽すべてが演奏可能になるよう音色が整えられています。総重量6トンの本柁やパイプはすべて米国から持ち込まれました。数名の職人も米国から来日し、久我山近辺の民家に寝泊まりして日本の宮大工と一緒に取り組みました。設置当初は不安定だったオルガンの音も、毎日聖歌を歌う生徒達の呼吸が程よい湿気となり、今では礼拝堂全体にじっくりなじむようになったそうです。

ケアがなされています。この礼拝堂で過ごした時間が卒業後貴重な思い出となり、ここで結婚式を挙げたいと望む卒業生も少なくないとのこと。礼拝堂は、毎朝の礼拝や入学式卒業式等の各校の式典、チャペルコンサートなど日々の教育活動に使用されるため、一般公開の機会はそれほど多くありません。2018年12月24日に、杉並区民対象に、オルガン見学会(演奏付)を実施し、たいへん好評でした。また、月1回の聖マーガレット礼拝堂日曜礼拝や、唱詠晩祷には参列できます。

「聖マーガレット礼拝堂」(通常は非公開)
演奏会等の予定は、公式ホームページをご確認ください。

執 筆: 池野良男
撮 影: NPO法人TFF
写真提供: 立教女学院
取 材 日: 2018年12月17日

※参考 立教女学院発行リーフレット「聖マーガレット礼拝堂」および「聖マーガレット礼拝堂パイプオルガン奉戴20周年を記念して」



聖マーガレット礼拝堂



礼拝堂内部(収容人数600名)



パイプオルガン

杉並キャンパスの象徴とも言える
ニケ像。女子学生達の朗らかな声
が響くキャンパスです。

